目 次

序

第1章 古代・中世…………… I

1 古 代 Ⅰ

ヘシオドスの先見／ソクラテス派の反商業論／ローマ法の経済思想／
初期キリスト教経済思想／古代経済思想の特質と背景

2 中 世 8

近代は中世に始まる——中世の4大革命／キリスト教と利子／ラテン語時
代の4期区分／公正価格論，貨幣非中立論を支える主観主義

3 プロテスタントの経済学 19

第2章 イギリス革命期の思想ならびに重商主義……………24

1 ピューリタン革命・名誉革命と思想家たち

——選択者としての個人の析出とその展開 24

ピューリタン革命の時代／身分制社会で「選ぶ」／誰かの損は誰かの得
——国力比較の時代／具体的な主権者を「選ぶ」／外国に「選ばれた」主権
者と近代的な消費者の誕生

2 重商主義 35

重商主義の概要／16世紀——スペインのサラマンカ学派／16世紀後半から
17世紀前半——イギリスのトマス・マン／17世紀後半——イギリスのペ
ティとフランスの科尔ベール／18世紀——イギリスのジェイムズ・ステュ
アート

第3章 スコットランド啓蒙とアダム・スミス	48
1 スコットランド啓蒙とスミス『道徳感情論』	48
スコットランド啓蒙とは何か／アダム・スミスの生涯とグラズゴウ大学／『道徳感情論』における良心の形成論	
2 『国富論』の経済思想	54
法学と『国富論』／富とは何か／国民を豊かにする方法／生産的労働と不生産的労働／富裕の自然的進歩／自然的自由の体系／啓蒙思想と利己心	
第4章 リカード、マルサス、J. S. ミル	71
1 リカード——差額地代説と調和的成長	71
リカード経済学の課題と投下労働価値説／差額地代説／賃金・利潤の相反関係／リカード経済学と格差	
2 マルサス——総需要を通じたマクロ経済の調和	78
適切な消費と貯蓄の関係／例外規定としての穀物輸入の禁止／穀物輸入問題と地主の消費の重要性／マルサス経済学と格差	
3 J. S. ミル——経済理論と社会哲学の有機的調和	83
経済学と「社会哲学に対する応用」／マルサス人口原理の社会哲学的な読みかえ／生産と分配の二元論と社会主義論／ミル経済学と格差——資本家と労働者のアソシエーション	
第5章 ドイツ古典派、ロマン主義、フリードリヒ・リスト	90
1 ドイツへのスミス経済思想の流入とドイツ古典派の展開	90
スミス『国富論』の受容と屈折／ドイツ古典派の第1世代／ドイツ古典派の第2世代	
2 ドイツ・ロマン主義——世代間倫理の提唱	98
アダム・ミュラー／フランツ・フォン・パーダー	
3 フリードリヒ・リスト——保護貿易による産業化	104
行動の人リストの生涯／後発資本主義国のための保護貿易——ただし温帯の大国民に限定／拡張主義の傾向	

第6章 ドイツ歴史学派……………115

1 初期歴史学派 115

ロッシャーにおける「歴史的方法」／ヒルデブラントにおける国民の個性を尊重した発展段階論

2 盛期歴史学派 121

歴史学派経済学の精緻化——「国民経済」と「精神」／グスタフ・シュモラー／ルーヨ・ブレンターノ——人間共同性と「商業精神」の流出／その他の盛期歴史学派

3 晩期歴史学派 128

晩期歴史学派の形成——盛期歴史学派への批判と「精神」／ヴェルナー・ゾンバルト——「交響曲」としての「資本主義精神」／マックス・ヴェーバー——「エートス」としての「資本主義の精神」／その後の晩期歴史学派／歴史学派経済思想と現代

第7章 マルクス主義と社会民主主義……………138

1 マルクスの経済思想 138

マルクスの経済学批判の背景／『資本論』の概要

2 マルクス後のマルクス主義と社会民主主義 148

「社会民主主義」の意味／エンゲルスによるマルクス主義の形成／正統理論としてのドイツ・マルクス主義／新たな正統理論としてのロシア・マルクス主義／ドイツ社会民主党の分岐と改良主義としての純化

第8章 限界革命とその周辺……………164

1 ニュートンとベンサムからのジェヴォンズ 164

ジェヴォンズ革命／ニュートンとベンサムからの影響

2 クルノーからのワルラス、そしてパレートへ 170

ワルラス純粹経済学の思想的背景／クルノーとワルラス——連続と断絶
ワルラスからパレートへ——継承と対立

3 オーストリア学派からシュンペーター、ハイエクへ 178

オーストリア学派の成立／シュンペーターとミーゼス／ハイエクと現代

オーストリア学派

第9章 ケインズ経済学と新古典派経済学……………192

- 1 ケインズ経済学の生成とその意義 192
ケインズ経済学の生成／ケインズ経済学の意義
- 2 新古典派経済学とそのケインズ経済学へのポレミック 201
ケインズ経済学の弱点とその克服／反ケインズの経済学と新古典派経済学の復権／ケインズ経済学の復帰

第10章 アメリカにおける制度進化の経済学……………213

- 1 ヴェブレン——有閑階級制度が浸透する世界 213
哲学から経済学へ／制度の定義——支配的な思考習慣／新古典派経済学に対する批判／有閑階級制度の残存と顕示的消費の世界／新時代の産業の将帥の出現／無形資産と競争的広告戦略／技術者が導く産業体制
- 2 コモンズ——集団行動が案出する適正価値 220
苦学生から経済学者へ／政策立案者としての実績／制度の定義——個人の行動を抑制し、解放し、拡大する集団行動／経済学の最小単位としての取引——3つの取引／折衝心理学／取引に関する普遍的原理——稀少性・効率性・将来性／無形財産と適正価値／共産主義、ファシズム、資本主義
- 3 ノース——新しい経済史のインパクト 227
新しい制度経済学の登場／制度の定義——取引費用を縮小するルール／取引費用と制度／インフォーマルな制約／フォーマルな制約／制度変化と経済効果／非エルゴード的世界における人間

補論1 幕末・明治時代における経済学の輸入と確立……………236

最初の邦訳欧米経済書と専門用語の訳出／欧米経済書の邦訳と自由・保護貿易論争／日本人による経済書の公刊／ドイツ経済思想の輸入／社会政策学会と日本における経済学の確立

補論2 ホモ・エコノミクス観の成立・席卷とその意味……………247

利己心は自然か／ホモ・エコノミクスの登場／科学と数学と物理学と／

ジェヴォンズとワルラス／ホモ・エコノミクスの単純さ／数理経済学の活
況／非近代社会における経済活動の評価／ヒュームの商業道徳／金儲けは
人間の自然なのか／ゲイリー・ベッカーと市場の言語の拡張／市場の外部
を不可視にするもの

結

人名索引

事項索引